

場所：4号館 202 講義室

特別講演

演題

深い学びを促すアクティブラーニングのデザイン

講師：関西大学教育推進部・教授

森 朋子 先生
(もり ともこ)

〔講師紹介〕



関西大学教育推進部教授。人がどのように学ぶのか、学びのメカニズムとプロセスを解明し、その知見を教育現場に活用する学習研究が専門。その知見を用いて、授業、カリキュラム、大学・学校改革を推進している。ケルン大学哲学部 Magister 修了後、大阪大学言語文化研究科前期・後期課程修了し言語文化博士取得。島根大学准教授を経て現職。文部科学省中央教育審議会教学マネジメント特別委員会委員、同教育再生加速プログラム委員、大阪大学特任教授（クロスアポイントメント）、東京大学情報学環反転学習社会連携講座フェロー、東京理科大学 AP アドバイザー、複数の高校で運営指導委員およびアドバイザーを兼務。

著書として、『アクティブラーニング型授業としての反転授業【理論編】』（共編者、ナカニシヤ出版、2017年）、『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』（共著、東信堂、2016）、『ディープ・アクティブラーニング』（共著、勁草書房、2015）などがある。

【講演要旨】

第4次産業革命や Society 5.0、また人生100年時代と言われる近未来において、学生は卒後のファースト・キャリアに長くとどまらず、転職するのが当たり前の社会を生き抜くことになる。それには大学がこれまで重要視していた知識の定着から、その知識を活用する資質・能力も含めた学習観に転換することが必要だ。そしてそのための教育方法として、アクティブラーニングおよび主体的・対話的で深い学びの導入が求められている。日本では2012年以降、複数の答申および学習指導要領の改訂により小学校から大学までの一体化改革が推し進められている。しかし多くの教育実践の現場においては、課題が見え隠れしている。例えば活動はアクティブだが思考との乖離がある、またグループワークにおいてフリーライダーが出るなどである。

そこで本講演は、大学が育成すべき学力をまずは社会や高校との接続において明らかにしたのち、登壇者が学習研究者としてこれまで記録を取っている800以上の授業研究データの中から、人が理解するメカニズムの知見、さらに知識の定着、資質・能力も含めた学力の3要素がそれぞれ大きく育成されたデザインについて報告するとともに、より効果的なカリキュラムデザインについても示唆したい。